

科目	ビジネスモデルコンピューティング	担当	法雲 俊邑	履修学年	3年
時間数	90分×時限×32回(週2回)	履修区分	選択	単位数	4単位

【授業目標・到達目標】

ICT(情報通信技術)時代の経営には、ビジネスモデルをいかに情報システムに取り入れて革新的な経営を行うかが重要な要素になる。まり、ビジネスモデルの構築による斬新さが企業の競争優位を制する。この授業では、ビジネスモデルの設計・構築・運用に関する知識と技術を解説しながら実習を行う。

実習では、XML(eXtensible Markup Language)を用いて、電子文書、設計図、各種伝票等を総合的に管理するビジネスモデルの設計、構築を扱う。

【履修注意】

出席は毎時間とる。随時、簡単な練習問題を行い、理解度を深める。

【評価方法】

出席点と実習課題、中間まとめ、期末試験の得点で総合的に評価する。

【試験について】

2/3回以上出席した者に中間のまとめと期末に試験を行う。

再試験対象者の条件:再試験なし

【予習・復習】

実習に重点をおいた授業である。欠席すると、全くわからなくなる。1回ごとの授業に予習・復習をしておくこと。

【教科書】

購入教科書なし。講義資料をWBTで配信と、ヘルパー資料で配付する。

【参考書】

書籍名:「ビジネス情報学概論」著者:定道 宏 出版社: オーム社

書籍名:「e-ビジネス技術入門教科書ビジネスモデルと情報技術(IT)」著者:石川博著 出版社:CQ出版

書籍名:「ビジネスモデル入門 情報技術(IT)ベースの新世紀型企业形態」著者:吉原賢治 出版社:工業調査会

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1・2	ガイダンス、eビジネスモデル入門	シラバスおよび授業概要説明、eビジネスモデル概要
3・4	eビジネスモデル特許概念	eビジネスモデル特許の概念と実例
5・6	eビジネスモデル特許	eビジネスモデルのEPR・SCMについて
7・8	eビジネスモデルの構成	eビジネスモデルとプロセス管理
9・10	電子商取引	電子商取引とEDI、具体的事例
11・12	eビジネスモデル作り	eビジネスモデル作りの基本・言語・リソース
13・14	HTMLとXML	HTMLとXMLでの記述方法
15・16	中間まとめ	前半の重要事項整理、復習とまとめ
17・18	eビジネスモデル例	B to B・B to C・C to Cの事例
19・20	モデルシステム化技術	紹介モデルの構想・デザイン
21・22	モデルシステム化技術	紹介モデルの作成
23・24	モデルシステム化技術	eメールモデルの構想・デザイン
25・26	モデルシステム化技術	eメールモデルの作成
27・28	XMLとデータベース	データベース、データ交換モデルの設計
29・30	電子文書	電子伝票・設計図の作成デザイン、
31・32	総まとめ・期末試験	全体の重要事項整理、総まとめ